

対中貿易依存度が高い国々はどこか？



公益社団法人 日本経済研究センター 主任研究員

牛山 隆一

トランプ米政権が中国製品に高率関税を課し、中国が対抗措置を取るなど米中間で貿易戦争と呼ばれる対立が続いている。米国が中国を敵視する要因の1つには巨額の対米貿易黒字があるが、その裏にはもちろん世界貿易における中国の存在感の高まりがある。中国の貿易額は2000年代以降に急増、輸出で世界1位、輸入で同2位の規模に拡大した。本稿ではこのように貿易大国化した中国への依存度がとりわけ高い国々はどこなのか明らかにしたい。以下、輸出入額データを国際通貨基金(IMF)、貿易品目に関する情報は国連の貿易統計をそれぞれ用いて議論を進める(注1)。

目次

1. 中国の貿易動向
2. 対中輸出比率ランキング
3. 対中輸入比率ランキング
4. 米中間の貿易関係
5. おわりに

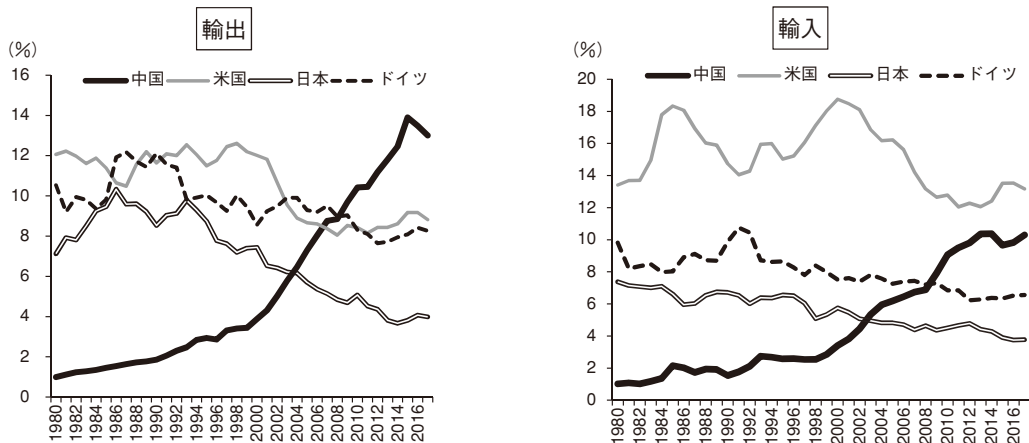
1. 中国の貿易動向

1-1. 2017年の輸出シェアは13%

まず、中国がどれほどの貿易大国になったのか改めて確認しよう(図表1)。世界の総輸出額に占める中国の輸出額のシェアは2000年の4%から急伸、2015年に14%と過去最高に達した。2017年は13%だ。中国の輸出シェアは2008年に米国に追い抜き、世界1位になった。一方、世界の総輸入額に占める中国の輸入額のシェアも2000年の3%から2014年に過去最高の10%強へ上昇、2017年もそれとほぼ同水準である。中国の輸入シェアは米国(13%)に次ぎ世界2位であるが、米国との差は2000年の15ポイントから2017年は3ポイントへ縮まっており、今後数年内に逆転の可能性もある。

中国の主要な輸出先(2017年)は、1位米国、2位香港、3位日本、4位韓国の順。ト

(図表 1) 世界貿易における中国のシェア



(資料) IMF, Direction of Tradeより作成。

トップ4の顔触れは、20年前の1997年と全く同じだ。ただ、日本の存在感は低下しており、輸出先としてのシェア（同）は6%と10年間で3分の1に落ち込んだ。急浮上したのが5位ベトナムだ。同国への輸出額は過去20年間で約70倍、同10年間で6倍に急増、中国の対世界輸出額が各々13倍、2倍だったのに比べ大きな伸びを記録した。この結果、ベトナムは中国の輸出先として10年前（2007年）の22位から急上昇した。

1-2. 貿易相手としてASEANが重み増す

一方、2017年の中国の主な輸入先は、1位韓国、2位日本、3位台湾、4位米国、5位ドイツの順だ。10年毎の推移を辿ると、日本は1997年、2007年と1位を維持したが、2017年に韓国に抜かれた。ここでも日本の凋落は

著しく、1997年の20%から2017年は9%とシェアは半分弱になった。ベトナムは輸入先としても台頭し、同国からの輸入額は過去10年間で約16倍に膨張。中国の輸入先として2007年の38位から2017年は9位へ上昇し、トップ10に食い込んだ。

ベトナムが加盟している東南アジア諸国連合（ASEAN）が中国の貿易相手として存在感を増している点は見逃せない。ASEAN10カ国を「1カ国」とみなすと、ASEANは2007年に中国の輸出先として4位に相当する規模であったが、10年後の2017年に日本、香港を抜き米国に次ぐ2位へ、輸入先としては2位相当から米国を上回って1位に立った。過去10年間の中国の対ASEAN輸出入増加額に対する対ベトナム輸出入増加額の寄与率を見ると、輸出で32%、輸入で37%とASEAN加盟国中、最大である。中国はタイやマレー

(図表 2) 対中輸出比率ランキング、上位20カ国・地域 (2017年)

順位	国・地域名	地域		対中輸出比率	10年間の上昇幅 (ポイント)	最大輸出品目
1	南スーダン	アフリカ	LDC	96%	—	原油
2	北朝鮮	アジア		87%	66%	石炭
3	モンゴル	アジア		85%	12%	銅鉱
4	トルクメニスタン	アジア		83%	82%	石油ガス
5	ソロモン諸島	大洋州	LDC	65%	20%	木材
6	エリトリア	アフリカ	LDC	62%	45%	銅鉱
7	アンゴラ	アフリカ	LDC	61%	24%	原油
8	香港	アジア (中国)		54%	5%	集積回路
9	コンゴ共和国	アフリカ		54%	9%	原油
10	オマーン	中東		44%	17%	非環式アルコール及びその誘導体
11	コンゴ民主共和国	アフリカ	LDC	40%	17%	精製銅
12	ミャンマー	アジア	LDC	39%	32%	石油ガス
13	ガボン	アフリカ		37%	27%	原油
14	ギニア	アフリカ	LDC	36%	36%	アルミニウム鉱
15	モーリタリア	アフリカ	LDC	35%	27%	鉄鉱
16	豪州	大洋州		33%	19%	鉄鉱
17	ラオス	アジア	LDC	29%	21%	銅鉱
18	赤道ギニア	アフリカ		28%	10%	原油
19	チリ	中南米		28%	12%	銅鉱
20	イラン	中東		27%	11%	原油

(注) LDCは国連がLeast Developing Countries (後発開発途上国) として指定している国々。最大輸出品目はHS4桁ベースで、2017年か、それが入手不能な場合は2016年の情報を使っている。北朝鮮のように統計が取れない国の場合は中国側の統計を用いた。

(資料) IMFのDirection of Trade, UN Comtradeなどから作成。

シアなど他のASEAN諸国との貿易も増やしているが、対ベトナム貿易に牽引される形で対ASEAN貿易が拡大している。

2. 対中輸出比率ランキング

2-1. トップ20にアフリカ9カ国

ここまで世界貿易に占める中国の位置、その主要な貿易相手を概観した。以下では「貿易相手国から見た中国の存在感」という視点から話を進める。具体的には対中輸出入額と

いう絶対額ではなく、世界各国の輸出入額に占める対中輸出入額の比率を算出、対中依存度が高い国々を見ていく。

図表2は対中輸出比率(2017年)の上位20カ国・地域のランキング表だ。まず、その特徴をいくつか述べよう。第1に対中輸出比率が50%を超えるのは9カ国で、10年前(2007年)の1カ国(モンゴル、72%)から大幅に増えた。特に1位の南スーダンは対中輸出比率が96%と輸出のほぼ全てが中国向けだ。第2に上位20カ国・地域にとって中国はいずれ

も最大の輸出先となっている。第3に地域別ではアフリカが9カ国と最多である。第4にそのことと関連するが、上位20カ国・地域のうち国連が指定する後発開発途上国（Least Developing Countries：LDC）が9カ国と約半分を占めている。第5にランク入りした国々の最大の対中輸出品目は、原油や石炭、銅鉱、鉄鉱など資源・エネルギーが大半だ。以上から輸出面で中国に大きく依存するのは「貧しい資源国」が多いことがうかがえる。

2-2. 1位・南スーダン、2位・北朝鮮

ランキング上位国を個別に見よう。まず1位の南スーダンは96%に上る対中輸出比率のほぼ全量が原油である。同国は2011年7月にスーダンから分離・独立した。当初は油田地帯の帰属を巡るスーダンとの対立から原油生産が停止する事態に陥ったが、国連貿易統計によると2013年から輸出が始まった。同国の対中輸出比率は5年連続で100%近くと高水準だ。ただ、中国の原油輸入先（2016年）として南スーダンは15位と順位は低く、同国からの輸入額は中国の原油総輸入額の1%弱に過ぎない。ランキング上位国では7位アンゴラが中国の原油輸入先として3位（シェア12%）、20位イランが6位（8%）の有力な調達先である。因みに中国の最大の原油輸入先はロシア（12%）、2位はサウジアラビア（10%）だ。

対中輸出比率の2位は北朝鮮となった。同

比率は90%近くあり、2007年の21%（11位）から10年間で66ポイントも上昇した。長年の経済不振が続く北朝鮮は輸出面で対中依存度を急速に高めている状況だ（後述するように輸入面でも同様である）。最大品目（2016年）は石炭で、対中輸出額の約半分を占める。同比率は2004年まで10%未満だったが05年に一気に20%台へ達し、09年に30%台、11年に40%台とぐんぐん上昇している。中国側から見ると、北朝鮮は石炭の輸入先（2016年）として1位豪州（シェア49%）、2位インドネシア（18%）に次ぐ3位（同10%）の相手国だ。北朝鮮はこのほか、衣料品や水産品も主要な対中輸出品目にしてている。

3位のモンゴルは北朝鮮と同様、中国と陸の国境を接している国である。2007年の1位から順位は下がったものの対中輸出比率は同年の73%から更に高まった。最大品目は対中輸出額（2016年）の45%を占める銅鉱だ。国連貿易統計によればモンゴルは中国以外に銅鉱を輸出していない。中国にとってモンゴルは銅鉱の輸入先として3位（輸入金額のシェア8%）に位置し、1位チリ（28%）、2位ペルー（27%）に次ぐ調達先となっている。また、モンゴルの対中輸出で2番目に大きい品目は石炭で、やはり同国産のほぼ全量が中国向けである。中国の石炭輸入先としてモンゴルは5位。銅鉱と石炭の両品目でモンゴルの対中輸出額の7割超を占める。

2-3. 圏外から急浮上したトルクメニスタン

2007年のトップ20圏外から一気に4位に急浮上してきたのがトルクメニスタンだ。2007年に1%に過ぎなかった対中輸出比率は2010年に36%へ急伸し、中国が最大の輸出先となった。その後も同比率は上昇を続けている。最大品目は天然ガスで、対中輸出のほぼ100%を占める。天然ガスの対中輸出が急増したのは2011年からだ。同年の輸出額は前年比2倍超の約134億ドルに膨張し、2014年は更に約302億ドルと過去最高額を記録した。資源の安定調達を目指す中国は近年、天然ガス産出国の中央アジア諸国との関係強化に余念がない。トルクメニスタンからの輸入増にもそのことが映し出されている。世界有数の天然ガス埋蔵量を誇る同国は、中国にとって輸入シェア24%（2016年）と最大の調達先だ。

対中輸出比率の5位は南太平洋のソロモン諸島だ。2007年も同じ5位だったから、同国は従来から対中依存が高い国と言えよう。対中輸出額の9割は木材で、ソロモン諸島の木材輸出額の9割は中国向けとなっている。因みに同国は台湾と外交関係を持つ数少ない国の1つであるが、台湾への輸出額はわずかだ。このほかランキング6位以下で過去10年間の比率上昇が目立った国々として、6位エリトリア（17%→62%）、12位ミャンマー（7%→39%）、14位ギニア（0.1%→36%）などが挙げられよう。エリトリアは銅鉱、ミャンマーは天然ガス、ギニアはアルミニウムの輸出

をそれぞれ大幅に増やした。

3. 対中輸入比率ランキング

3-1. トップ20にアジア12カ国・地域

次に対中輸入比率（2017年）を見よう。図表3はその上位20カ国・地域を並べたものだ。ランキングの特徴をいくつか述べると、第1に対中輸出比率とは異なり、同比率が50%を超えるのは1カ国（北朝鮮）だけだ。第2にトップ20のうちイラクとリベリアを除く18カ国・地域で中国が最大の輸入先となっている。第3に地域別で最も多いのはアジア（香港、マカオを除く）10カ国で、うち5カ国（北朝鮮、キルギス、モンゴル、ミャンマー、ベトナム）が中国と陸の国境を接する。第4に上位20カ国・地域のうちLDCは6カ国で対中輸出比率の9カ国に比べ少ない。第5に最大の輸入品目は携帯電話やコンピューター、家電製品、自動車、合成繊維など多彩だ。以上のことから対中輸入比率の上位は中国から距離が近い国々が多く、各国のニーズに合わせ様々な品目を輸入していることが分かる。

3-2. 1位は北朝鮮の90%超

個別の国を見ると、1位の北朝鮮は対中輸入比率が90%超と突出している。2007年は43%で香港（46%）に次ぐ2位だったが、その後の10年間で同比率は48ポイント上昇した。この上昇幅はトップ20の中では最大だ。IMF貿易統計を見る限り、北朝鮮は輸入でもほぼ

(図表 3) 対中輸入比率ランキング、上位20カ国・地域 (2017年)

順位	国・地域名	地域	対中輸入比率	10年間の上昇幅 (ポイント)	最大輸入品目
1	北朝鮮	アジア	91%	48%	合成繊維
2	香港	アジア (中国)	45%	-2%	携帯電話
3	カンボジア	アジア	LDC 34%	16%	メリヤス編物
4	マカオ	アジア (中国)	34%	-9%	携帯電話
5	キルギス	アジア	33%	15%	靴 (本底及び甲がゴム製又はプラスチック製)
6	モンゴル	アジア	33%	5%	電力
7	パラグアイ	中南米	31%	3%	携帯電話
8	ミャンマー	アジア	LDC 31%	4%	合成繊維
9	東チモール	アジア	LDC 30%	—	ブルドーザー
10	パキスタン	アジア	27%	14%	半導体デバイス
11	コモロ連合	アフリカ	LDC 27%	20%	家具
12	ベトナム	アジア	26%	6%	携帯電話の部品
13	イラク	中東	26%	19%	エアコンディショナー
14	日本	アジア	24%	4%	携帯電話
15	リベリア	アフリカ	LDC 24%	14%	船舶
16	エチオピア	アフリカ	LDC 24%	6%	貨物自動車
17	ウズベキスタン	アジア	24%	12%	通信基地局
18	チリ	中南米	24%	11%	携帯電話
19	豪州	大洋州	23%	7%	コンピューター及び周辺機器
20	ケニア	アフリカ	22%	15%	婦人服

(注) 図表 2 と同じ。

(資料) 図表 2 と同じ。

全面的に中国に頼る「一本足打法」の様相を強めている。2016年の上位 5 品目 (HS 4 桁) は、1 位合成繊維 (シェア5.8%、以下同)、2 位貨物自動車 (5.2%)、3 位石油製品 (4.0%)、4 位大豆油 (2.6%)、5 位携帯電話 (2.3%) の順。輸出では石炭のシェアが 5 割超と突出していたが、輸入では上位 5 品目のシェアを合計しても約 2 割にとどまる。北朝鮮は機械製品や化学品、食料品、原料など多彩な品目を中国から輸入しており、対中輸入品目数は約900と対中輸出品目数の約280を大幅に上回る。

中国の一部である 2 位香港と 4 位マカオに挟まれたところにいるのが 3 位カンボジアだ。対中輸入比率は10年前 (約18%) の約 2 倍に上昇、順位も14位から大きく上がった。カンボジアの輸入先として中国は2007年以降一貫してトップに立っている。2017年の対中輸入額は、2 位の輸入先であるシンガポールからの輸入額 (シェア13%) の約 3 倍の規模だ。カンボジアは近年、ASEAN諸国の中でも親中色な姿勢が際立つ国である。背景には強権的な統治を続けるフン・セン政権に対し中国が経済援助を拡大していることがある

が、貿易面でも対中依存の進展は著しい。対中輸入の上位5品目にはメリヤスや合成繊維、綿の織物などカンボジア最大の輸出品目である衣料品の原材料が並んでいる。

3-3. キルギスが圏外から5位へ浮上

2007年のトップ20圏外から5位へ駆け上がったのが中国の西側に隣接するキルギス。10年前の2007年にロシア（シェア40%）に次ぐ2位の輸入先であった中国（シェア18%）は、2016年に1位へ浮上した。2017年の対中輸入金額はシェア33%と10年間でほぼ倍増した。主な輸入品目は、靴や繊維製品、携帯電話などだ。このほか中国と陸の国境を接する国ではモンゴル（6位）、ミャンマー（8位）、ベトナム（12位）もトップ20に入っている。各国の対中輸入最大品目（HS4桁）を見ると、モンゴルが電力、ミャンマーが合成繊維、ベトナムが携帯電話部品と異なるが、北朝鮮と同様、対中貿易においては輸入品目数が輸出品目数を大幅に上回る点が共通している。具体的にはモンゴル（2016年、以下同）が輸出157品目に対し輸入789品目、ミャンマーが328品目に対し1,000品目、ベトナムが819品目に対し1,103品目となっている。

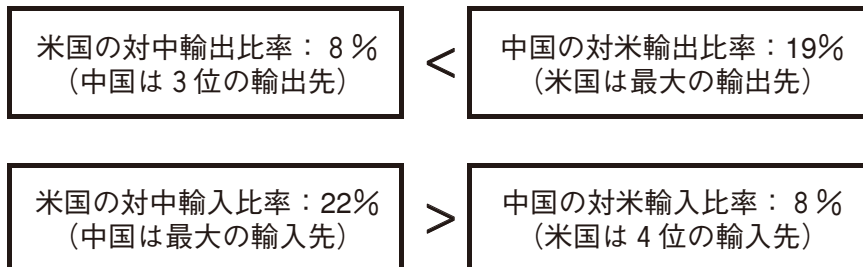
3-4. 携帯部品を大量輸入するベトナム

ベトナムにはもう少し触れよう。本稿1-1では同国が中国の貿易相手として存在感を増し、2017年に輸出先として5位へ浮上した

ことを述べた。これをベトナム側から見ると中国はシェア26%で最大輸入先となっている。1990年から2002年まではシンガポールが1位であったが、2003年に中国がトップに立った。最大の対中輸入品目は携帯電話部品である。2009年にそれまで最大品目であった熱延フラットロール鋼板を上回ってから一貫して1位だ。対中輸入額全体に占める同部品のシェアは2012-16年に12-16%で推移、2位以下を大きく引き離している。携帯電話部品の輸入が増えたのはベトナム国内で携帯電話の生産が拡大したことが主因である。特に韓国サムスン電子が2009年からスマートフォン・携帯電話の大型工場を稼働したのに伴い部品需要が拡大、中国からの調達が増えた（2番目の調達先は韓国）。

対中輸入比率ランキングのトップ20に改めて目を転じると、9位東チモール、10位パキスタン、11位コモロ連合、15位リベリア、20位ケニアなどが10年前の圏外から上昇している。各国の最大輸入品目は、東チモールがブルドーザー、パキスタンが半導体デバイス、コモロ連合が家具、リベリアが船舶、ケニアが婦人服である。また、トップ20圏外で順位を大幅に上げた国としては、南太平洋のマシャル諸島（22位、対中輸入比率は22.3%）、ボリビア（25位、21.8%）、ラオス（27位、12.1%）、ナイジェリア（30位、21.1%）などがある。

(図表 4) 米中間の貿易関係 (2017年)



(資料) IMF, Direction of Tradeより作成。

4. 米中間の貿易関係

米国が中国産品に高率関税を課し、中国も対抗措置を講じるなど米中間の貿易戦争が白熱し、その出口は見通しにくくなっている。ここでは米中の貿易関係を「米国にとっての中国」、「中国にとっての米国」という側面から見てみよう。

まず、米国の対中輸出比率(2017年)は世界54位の8%に過ぎない。米国にとって中国はカナダ、メキシコに次ぐ3番目の輸出先ではあるものの、中国のシェアはカナダとメキシコ(16~18%)の約半分にとどまる(図表4)。一方、中国にとって米国は最大の輸出先であり、対米輸出比率(同年)は19%と2位の輸出先である香港向けの比率(12%)を上回る。これらの数値は輸出面から見ると、「米国にとっての中国」よりも「中国にとっての米国」の方が大きな存在であることを示す。トランプ大統領の攻撃的な対中姿勢の裏にはこうした米側の「優位な立場」もあるの

かもしれない。ただ、米国の対中輸入比率を見ると世界26位の22%と比較的高く、中国はメキシコ、カナダ(ともにシェア13%)を上回り最大の輸入先となっている。半面、中国の対米輸入比率は8%と低く、米国は韓国、日本、台湾に次ぐ4位の輸入先にとどまっている。すなわち輸入面に目を転じると、輸出面とは逆の構図となるわけで、「中国にとっての米国」よりも「米国にとっての中国」の方が存在感は大きくなる。

ところで、中国は2017年に日本の輸出先として1位米国(シェア19.3%)をやや下回る2位(同19.0%)、輸入先としては2位米国(同11%)を大きく上回る1位(同24.5%)で、引き続き重要な貿易相手となっている。ただ、日本の対中輸出比率(19%)は世界27位であり、2007年(15%、16位)から比率は少し上昇したものの順位は大きく低下した。また、対中輸入比率(24%)は世界14位で、やはり2007年(21%、8位)から比率は上がったが順位は下がっている。中国の貿易大国化が更に進み、世界の多くの国々が対中依存を急速

に高める中、同比率で見た場合に日本の相対的な位置は低下している。

■ 5. おわりに

本稿では対中輸出入比率を算出し、中国への貿易依存度が高い国々の動向を調べた。世界貿易に占める中国の比重が一段と高まるにつれ、対中輸出比率が20%以上に達する国・地域は2007年の11から2017年は26へ、対中輸入比率が20%以上の国・地域も同じ期間に10から40へそれぞれ増加した。米中間の貿易摩擦という不透明要因はあるものの世界貿易に占める中国の存在感は更に高まることが予想される。こうしたなか中国側、相手国側双方の政治的、経済的な思惑を映しながら対中輸出入比率ランキングの顔触れは今後も変動を続けよう。中国と諸外国の経済関係を考察するには外国直接投資（FDI）や政府開発援助（ODA）などの面からも検討を加える必要があるが、貿易関係から読み取れることも多いだけに丹念にフォローしていくことが大事である。

（注1） 中国との貿易動向を調べるにあたり、北朝鮮のように統計が入手不能な国の場合は、中国側の統計を用いた。

